

鬼北町立広見中学校
道徳通信
道徳主任 酒井 智有
NO. 72
令和8年6月9日発行

よりよく生きる

独立行政法人国立青少年教育振興機構から、子どもゆめ基金10周年記念として、過去に学校に送られた「かがやく先輩からのメッセージ」は、子どもたちに向けて送られたメッセージをまとめたものですが、非常によい内容ですので紹介します。

「かがやく先輩からのメッセージ」 吉田 都(よしだ みやこ)

4歳の時、幼稚園のお友達が出るバレエの発表会を見に行きました。これが、私とバレエとの出会いです。本格的に習い始めたのは、小学3年生からです。最初、先生は優しく、お稽古に楽しく通っていましたが、6年生から先生の教育方針が厳しいものになっていきました。練習中にほんの少しでも笑顔を見せると「気が緩んでいる」と注意され、棒でたたかれるようになりました。怒られるばかりで、褒められることもなくなってしまいました。それでも、私は決してバレエをやめたいとは思いませんでした。バレエが好きだったし、何より、お稽古場で練習することが好きだったから。先生に注意されたことは、次のお稽古までには絶対にできるようにしよう、そして、もっと上手になろうと、いつも思っていました。怪我をして悩んだこともあります。練習にも行けず、気持ちが落ち込んで、笑えなくなってしまいました。そんな時、助けてくれたのが母でした。怪我が治るようにヨガの先生を探してくれたり、私に笑顔が戻るように犬を飼ってくれたり。バレエの衣裳のかざり付けをしてくれたのも母です。いつも母が、私を支えてくれました。



辛いことはたくさんありましたが、大人になった今、よかったと思うことがあります。それは、バレエの基礎を徹底的に学んだことです。イギリスへ行き、プロになってからもバレエの技術で困ったことは一度もありません。そして、「厳しい練習を乗り越えてきた」ということが、私の大きな自信になっています。どんなに大変なことがあっても「負けるものか」と思えるのは、あの厳しいお稽古を経験してきたからだと思います。厳しい先生でしたが、私を鍛えてくれたことを、今ではとても感謝しています。

バレエに熱中する毎日でしたが、小学生の頃は放課後にお友達ともよく遊んでいました。体を動かすことが好きだったし、バレエを習っていたのでゴム跳びは大得意。他にも、木登りやジャングルジム、お人形遊びやお買い物ごっこ、いろいろな遊びをした思い出があります。性格はおとなしく、学校では、どちらかというと消極的な子どもでした。授業中、答えが分かっているても手を挙げることはなかったし、人前で話したり、歌うことも苦手。バレエのお稽古でも、後ろのほうにばかりいたので、先生に注意されることもありました。でも、何度も舞台に立つうちに慣れてきて、前で踊ることが好きになりました。経験を積み重ねることは、とても大切なことだと知りました。

4歳の時に初めてバレエに出会って以来、バレエ一筋です。将来の夢を早く見つけることができ、よかったと思います。でも、夢に出会える時期は人それぞれ。「なかなか見つからない」からと焦ることはありません。誰にでも好きなこと、得意なことが何かあるはず。それに一生懸命に打ち込んでいけば、いつか必ず、自分だけの夢に出会えると思います。